

日本精鉱

営業益最高24億円へ

24年度グループ連携を強化

日本精鉱は、2022―24年度の中期経営計画で、最終年度の連結営業利益目標を過去最高だった21年度より約10%増の24億円と設定する。自己資本利益率(ROE)は10%以

上を維持する。基本方針はグループ連携の強化、収益力の改善、新たな価値を生み出す事業の創出、魅力ある会社づくりの4つとした。「チャレンジ・フォー・サステナブル・グ

ロース」のスローガンのもと、持続可能な事業成長に挑戦する。グループ連携の強化では、金属粉体の製造を手掛ける子会社の日本アトマイズ加工との連携により、双方が抱

える技術課題を解決する。粉体を扱う企業同士、両社が有する粉体のコア技術を生かすことで、課題の共有化と解決につなげる方針。植田憲高社長は「グループの連携強化は第一

番に掲げている」と強調する。

収益力の改善は、省人化・自動化や生産設備の整理・統合を推進し、歩留まりを向上させる。生産工程で発生したスクラップを再利用する技術の開発も進める。

新たな価値を生み出す事業の創出は金属硫化物のラインアップ拡充などに取り組む。シナジー効果が期待できる企業のM&A(企業合併・買収)も検討す

る。魅力ある会社づくりでは工場の三交代勤務を減らしワンシフトを増やしたい考え。ロボットなどの導入も検討し、従業員の作業環境の向上に取り組む。

前中計(19―21年度)は電子機器向けなどで増販や、三酸化アンチモン(原料であるアンチモン)地金の上昇などで、業績は好調だった。最終年度の21年度の連結営業利益は、当初目標比46%増の21億9000万円となり最

高益。ROEは10%の目標に対して17・9%で超過達成した。設備面では、アンチモン製品の生産拠点で

ある中瀬製錬所(兵庫県養父市)の大型炉更新などを完了。粉じん防止対策の空気輸送装置も導入した。